

# この十年、そして、これから

丘 修三

日本児童文学者協会は今年、創立七〇年を迎えた。

戦後創設された文学団体で七〇年の歴史を持つものほかに無く、日本児童文学者協会は、戦後の日本の歩みと共に長い道のりを歩んできたわけである。

五〇年記念のときの木暮正夫理事長は、九〇年代はさらに厳しい諸条件（子どもの本ばなれ、出版不況等）が立ちはだかることだろうが、「この世に子どもがいる限り、この世に児童文学でなければ自分の思いを伝えることのできないおとながいる限り、児童文学も私たちの協会の火も決して消えることはない」と述べ、今こそ協会誕生のときの熱い想いを、各自の心に思い起こそうと呼びかけている。

それからさらに十年を経た六〇年記念に際しては、砂田弘会長が「私たちがめざしてきたものと今後の課題」と題し六〇年の足跡を回顧し所信を述べているが、八〇年代以

降、創作を巡る活発な議論や研究活動が停滞していることを憂い、二〇〇四年の定時総会で採択された活動方針「いま改めて『民主主義的な児童文学の創造と普及』のために、全会的に踏み出そう」を思い起こそうと呼びかけている。

さて、七〇周年を迎えて、児童文学を取り巻く諸状況を俯瞰すると、お二方が案じた状況は一向に改善されることなく、さらに難しい局面を迎えているように思える。

殊に、この十年の社会環境の急速な変化は、我々がこれまで経験したことのないもので、質量ともに過去の何十年分に匹敵するといっても過言ではないだろう。そしてその変化が、これまでにない難しい問題を生起せしめているように思える。特に科学技術の進歩、中でもIT関係の進歩は、私たちの生活を大きく変えた。ほとんどの国民がスマホやパソコン、携帯電話などのIT機器を持ち歩き、人々